



鎌田篤司  
市政クラブ

市民病院の現状  
について

**問** 新型コロナウイルス感染症の病院職員への感染状況と影響は。

**答** 8月には常時20人前後の職員が新型コロナウイルスに感染し、感染に起因した休暇を取る中、ぎりぎりの状態だったが、新型コロナウイルス感染症の診療提供と通常医療を継続してきた。

**問** 新棟について、基本計画の概要を伺う。

**答** 「災害発生や感染症拡大など非常時における傷病から住民の生命を守る」等を整備のコンセプトとし、医療ニーズが高まる分野への機能強化、スペースの適正化による診療環境の改善等を整備の方向性としている。建築規模は延床面積を約9千㎡、階数を5階建てとし、概算事業費は医

療機器整備費等を除き、新棟の建設工事費、既存棟の改修工事費及び既存不適格解消工事費を合わせて税込約55億円としている。

新型コロナウイルス感染症  
第7波の対応

**問** 感染収束に向けた今後の方針は。

**答** 国及び県の動向を注視し、常に市として市民にできることはなにかを考え、必要な感染対策と社会活動のバランスを図り、市民が安心して蒲郡で暮らしていけるように関係機関との連携をさらに強化し、しっかりとワンチームで取り組んでいきたい。



蒲郡市民病院



鈴木基夫  
自由クラブ

サーキュラーシティ  
について

**問** 宣言後の市の取組施策について伺う。

**答** 令和3年11月に表明をし、4年3月にビジョンと7つの重点分野の公表のため、サーキュラーエコノミーシンポジウムを開催した。今年度は7つの重点分野における取組を示す実行計画を関係者の意見を聞きながら策定している。

サステナビリティ  
レポートについて

**問** 検討・導入の方向性について伺う。

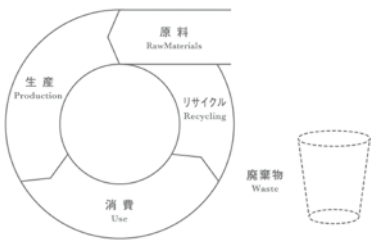
**答** SDGs等の関心の高まりを受け、サステナビリティレポートを開示する企業が増えてきている。本市においても、サーキュラーシティを進めていく上では積極的な情報発信

が重要である。また、今後、企業版ふるさと納税等の活用を含めた事業連携や蒲郡市のブランド力向上に寄与するためにも、情報を開示していくべきと考え

企業と連携した実証実験  
フィールドについて

**問** 考えを伺う。

**答** 今年4月には株式会社メルカリや株式会社ソウゾウと連携協定を結び、リユースに関する行動変容について実証実験を行っている。今後、サーキュラーエコノミーの先進地として、さらに注目されるよう積極的に発信し、協力していきたい。



サーキュラーエコノミー



喚田孝博  
市政クラブ

観光振興について

**問** 実質無利子・無担保融資の返済が始まったが、宿泊業は、全産業の中でも負債比率が最も高いため心配である。それを踏まえ、固定資産税の軽減措置を図ることができないか。

**答** 固定資産税の軽減ではない支援策を検討し、実施していく。

**問** 観光地経営としてのDXの推進には、観光協会の法人化が契機になると考えるが、今の現状を伺う。

**答** 9月末までに一般社団法人として登記し、令和5年4月から法人化した蒲郡市観光協会として活動を開始する予定である。

地域学校協働活動  
について

**問** 3年度から始まり

た活動であるが、今後はどのような形で取組を広げていくのか。

**答** 5年度には、現在未実施の形原中学校区と中部中学校区の小学校、塩津・大塚中学校の全9校に地域学校協働活動推進員を配置していきたい。

**問** 市は、児童クラブと放課後子ども教室を一体的に実施していく考えなのか。

**答** 新・放課後子ども総合プランのとおり実施していく考えである。5年度に、市全体に地域学校協働活動推進員の配置が実現すれば、市内全小学校で6年度から取り組めると考えている。

